

「平成20年度予算編成方針」部課長会議 市長あいさつ（要旨）

日時 平成19年10月10日（水） 9：00
場所 市役所13階 大会議室

平成20年度予算編成に当たり、私から基本的な考え方を申し上げますので、その基本的な考えを十分考慮する中で、厳に予算見積りに当たるようお願いします。

具体的方針については、後ほど、財務部長から話がありますことから、私の方からは、基本的なポイント3点に絞って申し上げます。

まず、1点目は、行財政改革の着実な実践であります。

本市の財政状況は、自主財源の根幹を成す市税収入が、18年度決算では2年連続の増加となり、回復基調にあること、また、合併効果の実現やこれまでの経費節減の取り組みなどによりまして、一時の危機的状況から、徐々に脱しつつあるように感じております。

しかしながら、市税収入は、税源移譲分が、18年度までは所得譲与税等で全額保証されておりましたが、これからは完全に自主財源化され、徴収率如何によることや、地方交付税の見直しの動向など、今後の財源確保が極めて不透明な中、当分の間、高い水準で推移する職員退職手当等の人件費と公債費に扶助費を合わせた義務的経費の割合が、引き続き増加傾向にあり、厳しい財政状況は、依然として続くものと想定しております。

また、国は、平成20年度概算要求基準においても、昨年の「骨太の方針2006」の方針を引継ぎ、2010年代初頭における、国と地方を通じた基礎的財政収支の黒字化などを目指し、「聖域なき歳出削減」など、財政健全化に取り組む一方、地方公共団体にも、国と歩調を合わせた歳出削減を求めています。

このような状況を踏まえ、今回策定した中期財政収支見通しでは、まちづくり戦略計画を見据えた普通建設事業費の増加などにより、20年度から23年度までの4ヶ年で、一般財源の不足額は約224億円と、昨年の推計から悪化する見込みとなっており、加えて、現在、県において策定中の新たな財政再建方針に伴う本市負担の増加も懸念される中、道州制の論議など、今後の地方分権の一層の推進への対応や、20年度からスタートする新たな総合計画の着実な推進を図るためにも、この財源不足は何としてでも解消する必要があると考えております。

そのため、本年7月に策定した、第4次行財政改革計画では、戦略的取組みとして、19年度から21年度までの計画期間内で、70億円の一般財源不足の解消を図る実施項目を掲げているところございまして、今後は、その取り組みを、すべて着実に行わなければ、予算編成が困難となる厳しい状況であることを、十分認識の上、予算要求におきましても、取り組みを確実に実践するようお願いいたします。

次に、2点目は、情報公開の徹底と説明責任の全うであります。

地方分権の進展に伴い、本市自らが主体性を持って施策・事業を立案し、実行する、自立し

た行財政運営が求められております。

そのためには、今後、より一層、行財政運営に対する市民の理解と協力が不可欠となっております。

私は、政策マニフェストの中でも、「行政運営のあらゆる場面において情報公開を徹底する」ことを掲げ、市民に対して、適時・適切に説明責任を果たしていかなければならないと考えております。

情報を公開する、また、説明責任を果たすことで、行財政秩序が自ずと高まってくるとともに、無駄を省いていくことにもなっております。

このようなことから、今回、新たに平成20年度予算から、その編成過程を公開することとし、また、補助金・交付金に係る予算につきましても、予算成立後に、その全件の内容を公開することとしたところであります。

皆さんには、この趣旨を十分踏まえ、適正に、予算要求を行うようお願いいたします。

3点目は、コミュニケーションを活性化すること、であります。

私は、先般、7月25日からの約1か月間、「高松・まちづくりふれあいトーク～市民と市長の対話集会」として、25地区で1750人余りの市民の皆様と、市政各般について幅広く意見交換し、新生高松市にける期待の大きさを、ひしひしと肌で感じたところでございます。

この対話集会でいただいた御意見・御要望等は、貴重な「市民の生の声」として、各種の施策・事業に反映させていかななくてはならないものと考えています。

これからの時代の行政施策展開では、その結果以上に、実現過程、プロセス、方法論が重要となってきます。

市民との協働というのは、事業形成過程においても求められるものでございまして、若干の手間と時間とお金がかかるかも知れませんが、それを重視していただきたいと考えております。

皆さんも、予算見積りに当たっては、このような市民本位の考えのもと、市民の意向を最大限尊重するとともに、国や県、市役所の中でも縦・横のコミュニケーションを十分にとる中で、幅広い情報の収集に努め、本市の将来を見据えて、今、何が必要で何が求められているのかを的確にとらえ、「選択と集中」の原則に則り、市民と協働のまちづくりを行っていくという理念にふさわしい予算を策定いただくようお願いいたします。

以上、地方分権時代にふさわしい、自己決定、自己責任の理念に基づく、地域の実情に応じた自主的・自立的な行財政運営が、従来にも増して、一層求められていることを踏まえ、平成20年度予算の編成方針等について、私の考えを申しあげましたが、都市経営の観点から、より効果的、効率的な行政運営を念頭に、職員の英知を結集し、創意工夫を凝らしながら、抜本的な改善・改革に、職員一丸となって取り組んでいただきたいと存じます。

特にお集まりの部課長の皆様方には、リーダーシップを如何なく発揮され、既存の制度、

慣習にとらわれず、職員の意識改革、行動改革を引き出し、現在、策定中の新たな総合計画における都市像「文化の風かおり 光かがやく 瀬戸の都・高松」の着実な実現に向け、予算編成に当たるよう強く望むものであります。

以上、よろしくお願いたします。